

先日行いました「児童発達支援自己評価」の集計結果と今後の改善に向けての取り組み状況について、以下の通り御報告いたします。

令和5年度児童発達支援自己評価表（事業所職員）

	今後の改善に向けての取り組み状況
環境・体制整備	職員の配置数や利用定員、清潔な環境について、概ね適切に設定しています。コロナ禍を経て、感染症への対応は、インフルエンザ等も含め流行がなくならない中で、どの程度緩和するかは試行錯誤をしており、子どもの発達のための環境を整えていくことは来年度も引き続きの課題です。職員の働き方において一部には業務量の多さについての意見もあり、タイムパフォーマンスについても検討していきたいと思えます。また、生活空間は今年度いくつかのことを変更して試し成果もあったところですが、見直していない事柄もあり、引き続き来年度も見直していきたいと思えます。
業務改善	事業所評価を規定のとおりに行うとともに、支援内容の一部について自主的な利用者アンケートを実施し、支援の改善をしています。職員の資質向上のために各種研修を実施しており、特に内部研修の充実を意識して行ってきましたが、動機づけの難しさや研修の効率という点では課題がありました。併せて、PDCAサイクルについても職員に重点的に周知してきましたが、実践していく難しさも抱えています。いずれのことも、今後のさらなる質の向上に向けて検討を進めていきます。
適切な支援の提供	定められたひととおりの支援については、実施できています。活動プログラムはチームで立案し、支援開始前、終了後の打合せはかなり念入りに行っています。ただし、打合せの必要な事柄を選択して時間をかけていくタイムマネジメントとしての大きな課題は昨年度に引き続きあります。職員の研鑽を図りながら、より効率的・効果的な支援の仕組みにしていきたいと思えます。また、記録についても、十分に行っていますが、連続した支援に効果的な記録の方法を一部試み、成果があったと感じています。今後はさらに洗練させ、一方で分量も多いことから時間効率のよい記録の方法を検討していきたいと考えています。
関係機関や保護者との連携	関係機関との連携は、保育所・幼稚園に対して今年度は前年度強化してきた連携の維持あるいは質の向上を図り、一定以上の成果を上げられました。一方で、連携が支援として定着してきた中で、園からの支援ニーズの質の上昇もあり、職員のスキル向上や役割の見直しも来年度は検討が必要です。また今年度は、発達障害者支援センターのオンライン研修も積極的に参加し、情報を入手できるようにしました。保護者との連携においては、親子通園という特徴を最大限生かし、子どもの状況や課題について日頃からよく話し合うようにしており、多くの成果を得ており、継続して支援していきたいと考えています。
保護者等への説明責任	重要事項説明書や児童発達支援計画等のものは、かなり丁寧に説明をしています。親子通園の特性から相談や助言は多く、各職員とも意識して対応をしていますが、一人当たりの通園のトータルの回数が少なく、十分な時間や機会を確保できないところもあり、今年度はおたよりの内容を増やすなど工夫をしていますが、発信に偏らないように工夫が必要と考えています。また、個別の相談以外にも、全体に知らせたり話し合ったりする機会が少なく、昨年度に続き懇談会の実施等を試みていますが、機会の確保への工夫を一層検討していきたいと思えます。他に、保護者会は、コロナ後に活動量を増やしたこともあって、協力することも増えました。専門家の相談会を共同開催することができ、来年度もそういった協力関係を維持していきたいと思えます。
非常時等の対応	非常災害に備えた避難訓練は、職員間での非常時の誘導経路等の確認を行っています。利用者の参加する避難訓練が実施できず計画的な対応としては不足した面もありました。次年度はより多くの人が関係しての効果的な訓練が計画できるように考えたいと思えます。また、利用者の健康状態については個々の状況をしっかりと聞き取るなかで必要に応じ感染症やアレルギー対策等のことについて十分に対応しています。虐待防止については、各職員が定期的に振り返りを行う中で実態の把握と意識の向上を図っています。

事業所自己評価に関しましては、厚生労働省の評価を基に行い、掲示いたします。